

経済学部経済学科通信教育課程

学部基礎情報

<p>【理念・目的】（2018年度自己点検・評価報告書より）</p> <p>通信教育部は、設立当初から、全国の勤労学生に高等教育を施すべしとの時代の要請を受け、広く門戸を開放して学ぶ場を提供してきた。この役割は今後も不変である。さらに、近年では「生涯学習の担い手」という新たな役割が付与され、期待を高めている。本学部は、これらの期待に答えることを理念とする。</p> <p>教育の手法においては、ユビキタス社会の到来を睨み、「いつでも、どこでも」学べるという特長を一層活かし得る、教育環境の整備と地位の確立に努めることを理念とする。</p> <p>本学部では、教養・専門を問わず、幅広い学識を究め、公共の福祉に資する「自立的な教養人」を育成することを目的とする。</p>
<p>【人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的（教育目標）】※学則別表(11)</p> <p>基本的な経済科目を学ぶ中で、システム、情報、環境といったテーマからグローバル経済の諸問題を考察・解決するための高度な能力と素養を身につけることを教育目標とする。そのため、経済のしくみや法則を研究するための基礎理論を修得し、それをベースに経済現象を多角的、総合的、体系的に理解できる能力を養うことを重視する。</p>
<p>【ディプロマ・ポリシー】</p> <p>所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> (DP1) 経済学の基本的な知識を体系的に理解している。 (DP2) 経済学と、その周辺分野の専門知識を、過去、現在、そして、未来の社会に生きる人々の営みと関連付けて理解している。 2. 汎用的技能 <ul style="list-style-type: none"> (DP3) (数量的スキル) 自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。 (DP4) (論理的思考力) 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。 (DP5) (問題解決力) 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。 3. 態度・志向性 <ul style="list-style-type: none"> (DP6) 自己の存在を理解し、社会の一員として高い倫理観と責任感を持ち、社会の発展のために自律的、主体的、協調的に行動できる。 4. 総合的な学習経験と創造的な思考力 <ul style="list-style-type: none"> (DP7) 身につけた教養と専門知識を総合的に活用し、現代社会を全体的、かつ創造的にとらえることで新たな課題を発見し、その解決によって社会に貢献できる。
<p>【カリキュラム・ポリシー】</p> <p>本学部の教育課程は、通学課程と同様であることを原則としている。ただし、多様な学習ニーズを持つ通信教育課程の学生に配慮し、通信教育課程独自のカリキュラムを編成する。</p> <p>さらに、メディア授業をはじめ、地方・週末スクーリング等、社会人学生の利便性向上を目的とした授業形態を提供する。ディプロマ・ポリシー（DP）に謳う能力を4年間の教育課程において涵養するために、教育課程の編成に際して、教育目標・育成方針に従い、以下の原則をおく。</p> <p>(CP1) バランスのとれた科目区分 カリキュラムを「一般教育科目」「保健体育科目」「外国語科目」「専門教育科目」の区分にて編成する。</p> <p>(CP2) 学力三要素の均斉成長 「一般教育科目」「保健体育科目」「外国語科目」は、本学部の教育目標を達成するために、すべての学生に共通の科目編成とすることを原則とし、初年次より受講可能なよう提供する。</p> <p>(CP3) スクーリング 対面授業や情報技術を活用したメディア授業の実施により、課題解決のために知識・技能を多面的、総合的に活用する能力を涵養する科目を配置する。</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

「専門教育科目」では、次の方針をもって科目編成を行う。

(CP4) ブリッジング

高等学校での知識と学問としての経済学の間を橋渡しを行う科目を初年次に設ける。

(CP5) 積み上げ式

初年次より学年が進行するにつれて、基礎から応用へと積み上げが可能ないように科目を配置する。

(CP6) 体系的

各学科の教育目標を達成できるよう、各学科の専門科目を体系的に学修可能ないように編成する。

(CP7) 分野・研究テーマ志向型

学生各々が抱く問題意識、あるいは、卒業後のキャリアイメージを、学生が追求可能なよう分野別編成する。

AP、及び、DP における各科目区分の役割は、次の通りである。なお、DP との関係については、補足資料（カリキュラムマップ）に詳細を示す。

■ 専門教育科目の編成と学科の特色 [API、APII、APIII、DP1、DP2、DP3～DP5、DP7]

「専門教育科目」に対しては、上記の通り、(CP4) から (CP6) の教育課程編成方針がある。(CP4) は、アドミッション・ポリシー (AP) で求めている第1 カテゴリー (API) の学力からディプロマ・ポリシーが求める能力 (特に、DP1 と DP2) への道案内をしていくとともに、アドミッション・ポリシー (AP) で求めている第3 カテゴリー (APIII) を補完するための教育課程編成方針である。

また、(CP5) と (CP6) は、アドミッション・ポリシー (AP) で求めている3つのカテゴリー (API～III) の学力を、ディプロマ・ポリシーの「知識・理解」に謳う能力 DP1 と DP2、「汎用的技能」の中でも DP3～5、そして、「総合的な学習経験と創造的な思考力 (DP7)」の能力へと最終的に導くための教育課程編成方針である。そして、(CP6) は、学科毎に学科の教育目標に応じて経済学の分野をいくつかに分けて示す科目群を明示することを意味する。

【アドミッション・ポリシー】

「社会に開かれた大学」として、高等教育の門戸を広く開放する。学ぶ意欲のある幅広い年齢層に対し、「いつでも、どこでも」学べる環境を整備する。

高等教育機関であることを前提として、学問に真摯に取り組み、生涯学習社会にあって、自己の知識や能力を社会に還元する意欲をもった人材を受け入れる。

求める人材像は、次の通りである。

1. 知識・理解、技能 [API]

- (1) 高等学校で学んだ主要教科・科目について、教科書レベルの知識をもっている。
- (2) 自身の考えを日本語で他者にわかりやすく文章表現することができる。

2. 思考力・判断力・表現力 [APII]

- (1) 課題解決のために知識・技能を多面的、総合的に活用できる。
- (2) その考察をまとめることができる。

3. 関心・意欲・態度 [APIII]

- (1) 世の中の現状を経済という観点から考えることに関心をもち、それを学修や行動に移すことができる。
- (2) 知的好奇心をもって、入学までに培った基礎学力をさらに広げ・深めていこうとする向上心をもっている。
- (3) 経済学を中心に、政策、法律、歴史、科学、思想、文学、言語などの幅広い分野にわたる教養を身に付け、それらを経済学の専門知識と結びつけて自分の世界を広げていく。
- (4) 論理的思考を修得しようとする。
- (5) スポーツ、文化的活動、ボランティア活動、資格取得など、大学内外、国内外における学びのフィールドを有機的に結び付けて、自分の学びをデザインしていく行動力をもっている。
- (6) 高い倫理観をもっている。
- (7) 生涯にわたって学び続ける意欲を持っている。

出願書類および、場合によっては面接によって、「1. 知識・理解、技能」、「2. 思考力・判断力・表現力」、そして、「3. 関心・意欲・態度」の3つのカテゴリーについて、すべての力を総合的に評価する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

I 2021年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2021年度大学評価結果総評】(参考)

経済学部通信教育課程には多様な学生が学んでおり、それらのニーズに耳を傾け、教育に反映して質の高い教育を提供しており高く評価できる。対象とする学生は、社会人だけではなく身体障がい者、精神障がい者、精神疾患を抱える者など様々な配慮が必要な学生も多く、ニーズも多岐にわたっていると推察される。本教育課程では、学生相談室や学生支援室等との連携をはかりながら学生支援を行うと同時に、学生アンケートを用いて、例えばメディアスクーリングを拡充するなど、アンケート結果を単に教授会にフィードバックするだけでなく、具体的に活用し教育効果を高めている。さらに対面授業を常としない教育課程であるからこそ、丁寧な学習ガイダンスや多様な形態のスクーリングを展開している。

本教育課程の行っている教育方法は、コロナ禍において非対面授業を余儀なくされた他学部や他の教育課程にとっても学ぶべき教育方法が多く、今後のさらなる展開を期待したい。

問題点として記載されている専任教員の不在問題については、いずれこの配置は必要になると思われるので検討が望まれる。

【2021年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

通信教育課程において身体障がい者、精神障がい者、精神疾患が重い学生等も多く在籍している。こういった学生への学生支援について、学生相談・支援室等の学内各所との連携をはかり、通信教育部として引き続き対応している。

カリキュラムの体系化等については、2013年度からカリキュラム改革を実施し、できる限り通学課程のカリキュラムと同等の内容とする一方、真に学ぶ意欲と適性のある学生に対し、メディアスクーリングの拡充なども行い、広範な知的素養と思考力を身につけた社会に貢献しうる人材を育成するための授業科目を体系的に配置する努力を引き続き行っている。

学生アンケートなどで要望が多いメディアスクーリングの充実に関しては、2018年度メディアスクーリング開講科目数は、15であったが、2021年度には27にまで増加させている。2021年度には、新規に「経済政策論A/B」、「日本経済論A」をメディアスクーリング科目として開講した。

【2021年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

経済学部経済学科通信教育課程には、身体障がいや精神障がいをもつ学生も多く在籍しており、こうした学生がもつ特別な教育ニーズへの対応を、学生相談室や学生支援室として連携して行っている点が高く評価できる。

多様な学生への対応に学生アンケートの結果を用いている点も評価できる。特に、多くの学生から要望があるメディアスクーリングを拡張し、開講科目数を大幅に増やした点は大いに評価できる。

通信教育課程専任の教員が不在である問題については、引き続き、検討することが望まれる。

II 自己点検・評価

1 理念・目的

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

1.1①学部(学科)の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。2018年度1.1②に対応

はい

1.1②理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。2018年度1.1③に対応

※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。

現在のところ、定期的な検証を行っていないが、今後に向けた継続的な改革・改善に際し、理念・目的の適切性についても、通信教育学務委員を中心に検証していきたい。

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

1.2①学部(学科)の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。2018年度1.2①に対応

はい

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた。B:改善することができなかった。」を意味する。

1. 2②学部（学科）の理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。2018年度1.2②に対応

はい

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
法政大学通信教育部学則第1条にその目的を掲げ、第1条の2、別表7に、経済学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を掲げている。全学生に対して配布している『学習のしおり』にも掲載している。他に、通信教育部HPで経済学科の教育目標を公開している。 https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/target.html

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
特になし

【理念・目的の評価】

<p>経済学部経済学科通信教育課程では、大学の理念を踏まえたディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーが作成され、学生に配布される『学習のしおり』に掲載して周知をはかっている。大学のHPにも公開されており、評価できる。</p> <p>理念・目的の適切性に関する検証は現在行われていない。一方で課題・問題点は「特になし」となっているが、理念・目的の適切性に関する検証が行われていないことを課題として捉え、通信教育学務委員会を中心に、経済学部教授会と連携を図りながら、検証を進めていくことが望ましい。</p>
--

2 内部質保証

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

2.1①質保証委員会は適切に活動していますか。2018年度2.1①に対応

はい

<p>【2021年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信教育課程の学事事項は、通信教育学務委員会で審議事項である ・必要に応じて、各学部教授会の審議・報告事項としている ・通信教育部事務部管理職は、FDアドバイザー・ボードの構成員である ・シラバスの第三者確認は、質保証委員会を主催する教授会執行部のメンバーでもある通信教育課程主任と、学務委員で実施している ・通信教育課程主任/学務委員設置による運営責任の明確化した組織体制である ・経済学部経済学科通信教育課程の自己点検・評価シートは、経済学部教授会質保証委員会が学部と大学院の自己点検・評価シートとともに確認作業を実施し、教授会にて承認事項となっている。 ・2021年度、質保証委員会は、4月23日、5月21日、12月10日、3月11日の計4回開催され、主に自己点検に関しての検討が行われた。

2.1②質保証委員会等の内部質保証推進組織は、COVID-19への対応・対策の措置を講じるにあたってどのような役割を果たしましたか。新規

※取り組みの概要を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

<p>質保証委員会は、自己点検に関する検討が主なため、COVID-19 への対応・対策を講じるにあたり、主に学務委員、学務委員会での検討により行われた。</p>
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>
<p>特になし。</p>

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
特になし

【内部質保証の評価】

<p>経済学部経済学科通信教育課程では、質保証委員会の委員は学部の委員が大学院と通信教育課程の委員を兼務する体制となっており、座長1名と委員3名の構成となっている。2021年度には質保証委員会が計4回開催され、主に自己点検に関する検討が行われた。</p>

3 教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

3.1①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。2018年度3.1①に対応

はい

3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

3.2①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。2018年度3.2①に対応

はい

3.2②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。2018年度3.2②に対応

はい

<p>【根拠資料】 ※冊子名称やホームページURL等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標 http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/target.html#menu ・ディプロマ・ポリシー http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/diploma.html#menu ・カリキュラム・ポリシー http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/curriculum.html#menu
--

3.2③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と関連性の検証プロセスを具体的に説明してください。

2018年度3.2③に対応

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、検証プロセスを記入。
各種データの収集や学生アンケートを実施し、学習効果や満足度等の把握を継続して行っている。通信教育学務委員会において、経年（カリキュラム変更前後）における成績分布や単位修得試験受験者数・レポート提出数等のデータも提示されている。シラバス第三者確認を活用し、適切に単位修得方法の厳正な運用ができるよう、環境整備を行っている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし

3.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

3.3①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。2021年度 1.1①に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。
通信教育課程は、通信学習、スクーリング、メディアスクーリングといった様々な形態で教育を提供している。学生は自分に適した学習形態を選択できることが通信教育課程の特徴の一つである。特にスクーリングにおいては、昼間6日間の夏・冬期スクーリング、夜間14週の春期・秋期スクーリング、3日間の集中授業である週末スクーリング、地方スクーリング、GWスクーリング、更にインターネットを利用したメディアスクーリングを開講しており、その形態は多様である。今年度に限っては、夏・冬期スクーリングは、Covid-19の感染拡大の影響のため、対面ではなく、オンラインで実施を余儀なくされたことは留意しておく必要がある。そして、前年度に引き継ぎ、メディアスクーリングの開講科目を増やす努力をしており、通信教育課程全体（他学科公開科目を含む）として85科目（2020年度）を設置している。これらのメディアスクーリングにおいては、リニューアル（撮り直し）も一部で実施され、学生のニーズに対応している。これら多様な開講形態、多様なスクーリングは、社会人、障害者等を含む様々な背景を持つ多くの学生にとって、選択肢の幅を広げるのみならず、能力育成の観点からも大きなメリットとなっている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等
<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程表 https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/economics/subject/cultural.html ・カリキュラムマップ https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-map.pdf ・カリキュラムツリー https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-tree.pdf ・スクーリング開講科目一覧 https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/system/schooling/media-subject.html

3.3②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。2021年度 1.1②に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。
2013年度からカリキュラム改革を実施し、できる限り通学課程のカリキュラムと同等の内容とすると同時に、経済学部経済学科として修得が求められる基本科目を厳選したカリキュラムとした。また、真に学ぶ意欲と適性のある学生に対し、広範な知的素養と思考力を身につけた社会に貢献しうる人材を育成するための授業科目を体系的に配置した。これにより、日本の通信教育課程において、もっとも幅広い経済学の知識の習得、教育を実現した学科の1つとなっている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・教育課程表 https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/economics/subject/cultural.html

3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

3.4①学生の履修指導を適切に行っていますか。2021年度1.2①に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。 ・Web 学習相談制度 ・ステップ型の学習ガイダンス (1 ステップ:職員による制度説明・2 ステップ:卒業生による経験談他・3 ステップ:教員による学習指導他) なお、COVID-19 の感染拡大で対面の学習ガイダンス等ができないケースが発生した場合の対応も適切に行っている。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・学習ガイダンス https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/learn-support/guidance/ ・学習ガイダンスの動画 https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/guidance/

3.4②学生の学習指導を適切に行っていますか。2021年度1.2②に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組み概要を記入。 通信学習において、市販本を教科書として利用している科目のうち、一部の科目においてスタディガイド(学習指導書)を作成・配布し、学習の手助けとしている。また、通信学習を進めるにあたり、生じた疑問点に質問することが可能な「学習質疑」制度があり、直接担当教員の指導を受けることが可能となっている。 スクーリング時においては、オフィスアワーを設置している。夏期・冬期スクーリングにおいて「通教生のつどい」を実施し、学生間のみならずこれに参加する教員・学生間での情報交換も可能となる場の提供も行っている。 この他、前述の Web 学習相談制度は通信教育部卒業生を担当者とし、履修のみならず、学習相談等にも対応している。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・スタディガイドサンプル ・学習のしおり抜粋

3.4③1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行なっていますか。2018年度3.4③に対応

はい
【履修登録単位数の上限設定】※1年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位の上限を記入。 年間履修単位数を 49 単位までと定めている。
【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。 本科生は教職・資格科目を 49 単位とは別に、原則合計 60 単位まで履修できる。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・法政大学通信教育部学則

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた、B:改善することができなかった。」を意味する。

3.4④シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。2018年度3.4④に対応

はい
【検証体制及び方法】※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。
・質保証委員会を主催する教授会執行部でもある通信教育課程主任と、学務委員による全シラバスチェック
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・特になし

3.4⑤授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。2018年度3.4⑤に対応

はい
【検証体制及び方法】※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。
・授業改善アンケート質問事項「授業の運営が適切であった」等で確認
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし

3.4⑥通信教育課程では、通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。2021年度1.2③に対応

※取り組みの概要を記入。
感染者数が急増する状況においては、学生との面談が必要になった場合、リアル（対面）での面談は実施せず、Zoom等を利用して対応する配慮を行っている。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし

3.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

3.5①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。2021年度1.3①に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
【確認体制及び方法】※箇条書きで記入。
・成績評価方法と単位認定の内容の明記および遂行
・通信学習シラバス・設題総覧「設題解答にあたっての解説・注意等」
・シラバス「成績評価基準」
・各期間と各都市のスクーリングシラバス「成績評価基準」, 「講義内容」「予習範囲」等単位認定への道筋を記載
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・カリキュラムマップ https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-map.pdf
・カリキュラムツリー https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-tree.pdf

3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

3.6①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。2021年度1.4①に対応

はい
【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】※箇条書きで記入。
・進級判定は卒業判定と併せて教授会審議され承認されている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

・成績分布/レポート数/単位修得試験者数/スクーリング受講者数等は学務委員会を通じて教授会に報告されている。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし

3.6②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。2021年度 1.4②

【対応】

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組みの概要を記入。
すべての科目について、どのディプロマ・ポリシーに該当するのかを網羅した。それをもとに、各学科のカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップを作成した。これにより学習成果を測定するための基礎資料が完成した。またカリキュラムツリー・カリキュラムマップをHPに公開している。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・カリキュラムマップ https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-map.pdf
・カリキュラムツリー https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-tree.pdf

3.6③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。2021年度 1.4③【対応】

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。
通信科目はレポート添削に加え、単位修得試験（筆記試験）によって一連の学習の最終的な到達点を測定している。スクーリングでは授業の最終日に実施する最終試験（筆記試験）でその成果を測っている。また、メディアスクーリングでは中間レポートを課している科目も多くあり、学習効果の向上を心掛けている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
・多様な背景を持った在籍生が多いのが通信教育課程の特徴であるが、在籍生のニーズを正確に把握するために学生アンケートの集計結果を活用している。これは受講形式としてメディアスクーリングの拡充を目指すことなどの方針決定に寄与しており、教育効果を高めるための工夫かつ長所である。
・成績評価基準の変更とGPA制度の導入により、公平で信頼性のある評価を実施する努力もしている。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

特になし

【教育課程・学習成果の評価】

＜①方針の設定に関すること（3.1～3.2）＞

経済学部経済学科通信教育課程では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを、学生にも、広く一般にも周知、告知しており、評価できる。

通信教育学務委員会においては、成績分布や単位修得試験受験者数、レポート提出数等のデータを共有し、学生アンケートも実施して、学生の学修状況の把握に努めている点も評価できる。こうしたデータを元に、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と関連性の検証を今後は行っていくことを期待したい。

＜②教育課程・教育内容に関すること（3.3）＞

経済学部経済学科通信教育課程では、社会人学生や障がいがある学生など、学生の多様なニーズに対応し、従来の通信学習やスクーリングに加え、メディアスクーリングも提供している。学生の学修を促進するための工夫や対応がなされているという点が高く評価できる。

2013年度からカリキュラム改革を実施し、できる限り通学課程のカリキュラムと同等の内容とした点も、通学課程のカリキュラムの方針が「積み上げ式」であり、高校で学ぶ水準から経済学を順序立てて学べる構成になっていることを考慮すると、高く評価できるものである。

一方、通信教育課程にはすでにビジネスで活躍している社会人学生も多く在籍している。通学課程に在籍する学生とは異なる、そうした学生のニーズに対応する授業科目や編成なども検討されることを期待したい。

＜③教育方法に関すること（3.4）＞

経済学部経済学科通信教育課程では、履修指導に通信教育部の卒業生が通信学習相談員を担い、メールで相談を行う「Web通信学習相談制度」や各期の単位修得試験実施日に「ステップアップ方式の学習ガイダンス」を実施するなど、学生のニーズに応えていくための工夫がみられる点は評価できる。

市販の教科書を補助するためのスタディガイドを配布したり、学生が担当教員に質問することができる手順を確保している点は評価できる。スクーリング時のオフィスアワー設置や、学生間で話すことができる機会を設けている点も評価できる。

シラバス第三者確認を活用し、適切に単位修得方法の厳正な運用ができるよう、環境整備を行っており、通信教育課程主任と学務委員による全てのシラバス確認をしている点も評価できる。

＜④学習成果・教育改善に関すること（3.5～3.6）＞

経済学部経済学科通信教育課程では、成績評価と単位認定についてはシラバスに記載されているとしてあるものの、適切性の確認方法としては十分とは言えないため、検討することが望ましい。

経済学部経済学科通信教育課程では、成績の分布、レポート提出数、単位修得試験者数、スクーリング受講者数などの基礎データを、学務委員が教授会に報告している。学生の学修状況を共有している点が評価できる。

すべての科目についてディプロマ・ポリシーとの対応を明確にしたことは評価できるが、たとえば対応表などの根拠資料はなく、学習成果を測定する指標との関連も不明瞭であるため、科目とディプロマ・ポリシーとの関連性をどのように活用していくのか、今後に期待したい。

4 学生の受け入れ

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

4.1①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。2018

年度 4.1①に対応

はい

4.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

4.2①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。2018年度 4.2①に対応

はい

※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

定員充足のあり方については、通信教育課程全体にかかわる大きな課題である。文部科学省担当部署も本件について十分認識していることを確認している。学務部教学企画課と連携を図り、他大学の事例をはじめ、情報収集にも力を入れ、引き続き改善に向けた検討をしたい。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

特になし

4.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

4.3①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。2018年度4.3①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※検証体制及び検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

学生募集および入学者選抜結果については、毎年度「通信教育学務委員会」で志願者数、合格者数、入学者数等の関連データが、ともに適宜報告される。データを踏まえ、「通教通信教育課程主任および通教通信教育学務委員」が現状と課題を教授会にフィードバックしている。志願者選考等は通信教育課程主任/学務委員が実施・検証している（通読判定と呼んでいる）。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

特になし

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

・通信教育部の定員充足のあり方については、通学課程の設置・認可、アフターケア等への影響もあるため、引き続き学務部教学企画課と密に連携をとる。

【学生の受け入れの評価】

経済学部経済学科通信教育課程では、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに対応したアドミッション・ポリシーが作成され、学生に配布される『学習のしおり』に掲載して周知をはかっている。大学のHPにも公開されており、この点は評価できる。

定員充足のあり方については、経済学部経済学科固有の課題ではなく、通信教育課程全体にかかわる、法学部、文学部、経済学部共通の大きな課題として認識されている。他大学の事例等の情報収集を含め、また、学務部学務課との連携の下、検討し、改善することが望まれる。

5 教員・教員組織

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示してい

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

るか。

5.1①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。2018年度5.1①に対応

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。
<ul style="list-style-type: none"> ・経済学部執行部（学部長1名、教授会主任2名、教授会副主任1名、通信教育課程主任1名） ・教授会（年間で計13回開催。この他予備日を3回設置。） ・通信教育学務委員会/教養教育部会（原則として月1回）
【明示方法】※箇条書きで記入。
<ul style="list-style-type: none"> ・各種委員会体制を発表し教授会資料として配布
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学通信教育部学則 ・通信教育部学則に関する規程 ・通信教育関係学部長会議規程 ・通信教育学務委員会規程 ・通信教育教養教育部会細則

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

5.2①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。2018年度5.2①に対応

はい
※教員像及び教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性の観点から教員組織の概要を記入。
<p>大学通信教育設置基準の附則3「この省令施行の際、現に通信教育を開設している大学の組織、編成、施設及び設備で、この省令の施行の日前に係るものについては、当分の間、なお従前の例によることができる」に拠り、通信教育課程専属の専任教員は配置していないが、教科担当者に必ず専任教員を配置し、また通学課程の教員が通信教育課程も併せ行う形で教育を行っていることで、カリキュラムにふさわしい教員組織を備えていると判断している。</p>
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
<p>さらなる課題としては、依然として通信教育課程専任の教員が不在である点である。この問題については、大学通信教育設置基準の附則にあるとおり、「この省令施行の際、現に通信教育を開設している大学の組織、編成、施設及び設備で、この省令の施行の日前に係るものについては、当分の間、なお従前の例によることができる。」に従い、他大学と歩調を合わせながら対応する必要がある。</p>

【教員・教員組織の評価】

<p>経済学部経済学科通信教育課程は、経済学部の学部長1名、教授会主任2名、教授会副主任1名、通信教育課程主任1名からなる、経済学部執行部が運営している。経済学部の教授会は年間13回開催され、通信教育学務委員会/教養教育部会も原則として月1回開催されていて、役割分担と責任の所在は明確である。</p>
--

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

経済学部（通学課程）の専任教員が通信教育課程の科目も担当することで、カリキュラムにふさわしい教員組織を備えていると評価できる。
通信教育課程専任の教員が不在である点が課題とされている。これについては今後の改善に期待したい。

6 学生支援

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

6.1①卒業・卒業保留・留年者及び休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。2018年度6.1①に対応

はい
【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※箇条書きで記入。 ・卒業判定は、進級判定と併せて教授会において、審議、承認されている。 ・休・退学は、学生からの申請に基づき教授会において、審議、承認されている。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 特になし

6.1②学部（学科）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。2018年度6.1②に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
※学生の生活相談に関する取り組み概要を記入。 通信教育部学生は全国に在籍し、通学課程の学生のように毎日通学し、接触があるわけではない。しかし、スクーリング時なども含め、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会との連携をはかり、問題・相談に対応している。 【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 特になし

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
特になし

【学生支援の評価】

経済学部経済学科通信教育課程では、卒業判定、進級判定が経済学部教授会の審議事項となっており、また、休学者、退学者の状況も経済学部教授会で報告され、審議、承認されている。情報の共有は適切に行われていると評価できる。
通信教育課程に在籍する学生の所在地は全国に散らばっていて、通学課程に在籍する学生と同じような頻度で教員と接触する機会があるわけではないが、学生相談支援室、通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会との連携をはか

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

りながら、学生からの相談に対応しており、評価できる。

7 教育研究等環境

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

7.1①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフ、授業支援アシスタント、ラーニングサポーターなどを配置することによる、教員の教育研究活動を支援する体制は整備されていますか。【2018年度 7.1① に対応】

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※教育研究支援体制の概要を記入。

情報実習など、一部科目において、通学課程同様、ティーチング・アシスタント (T・A) を採用し、教育研究支援の一助となっている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

特になし

7.1②通信教育課程として、学生の学習環境や教員の教育研究環境の整備に関して、COVID-19 への対応・対策を行っているか。行っている場合は、その内容を教えてください。【新規】

※取り組みの概要を記入。

先に示したように、なお、COVID-19の感染拡大で対面の学習ガイダンス等ができないケースが発生した場合の対応も (zoom によるものへ切り替えなど) 適切に行っている。夏季・冬季のスクーリングなども、規模を維持しつつ、オンラインに変更して実施した。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画 (既に実施している場合にはその進捗状況も含めて) をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

特になし

【教育研究等環境の評価】

経済学部経済学科通信教育課程では、情報実習などの科目においてティーチング・アシスタント (TA) を採用し、教育研究支援の一助としている。

COVID-19 への対応としては、Zoom を用いて学習ガイダンスを実施したり、夏季、冬季のスクーリングをオンライン開催するなど、適切に対処したと評価できる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

8 社会貢献・社会連携

(1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。

8.1①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っていますか。2018年度 8.1①に

対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組み概要を記入。

通信教育協会加盟大学と合同説明会に参加し、広く高等教育の門戸を開放していることを全国の進学検討者に知らせている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

特になし

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

特になし

【社会貢献・社会連携の評価】

経済学部経済学科通信教育課程では、通信教育協会が主催している合同入学説明会に他の加盟大学とともに参加し、通信制大学への進学を検討している候補者への広報を行っていることが記載されていて、この点は評価できる。しかしながら、学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動については記述がないため、今後はそのような活動について検討することが望まれる。

9 大学運営・財務

(1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

9.1①通信教育学務委員会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。2018年度 9.1

①に対応

はい

※概要を記入。

通信教育学務委員会規程に定められた内容に則り、月1回を目安に定期的に通信教育学務委員会を開催し、入学選考から卒業に至るまでの各種学事事項が審議されている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

法政大学通信教育学務委員会規程

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

法政大学通信教育教養部会細則
 法政大学通信教育部学則
 法政大学通信教育学務委員会規程
 法政大学通信教育部学則に関する規程
 法政大学通信教育関係学部長会議規程

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
特になし

【大学運営・財務の評価】

経済学部経済学科通信教育課程では、通信教育学務委員会規程に定められた規程に則り、原則として月1回の通信教育学務委員会を開催しており、学生の入学選考から卒業判定に至るまでの各種学事事項を審議している。根拠資料として各種規程が参照されており、規程に則った運用が適切になされていると判断できる。

III 2021 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
1	中期目標	生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実。	
	年度目標	過年度の成績分布データや学生アンケートを元に学生のニーズをとらえ、世代に関わらないカリキュラムの充実を目指す。	
	達成指標	学務委員会資料の教授会等へのフィードバック（通教主任による報告や教授会での承認等）。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	アンケート調査の結果は教授会の回覧資料として経済学部の全教員が閲覧している。
		改善策	コロナ禍のなかメディアスクリーニング等に対する教員の関心も高まっており、通教育学務委員のほか、経済学部の教員全体が通信教育部の現状や改善に関心を持つような環境づくりが重要である。
		質保証委員会による点検・評価	
所見		学生アンケートの報告によって、通信教育課程について、教授会メンバーの知見が深まった。	
改善のための提言	通学課程のオンライン授業が定着する中、通信教育課程に対する、教員の参加向上に努められたい。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
2	中期目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップの活用を通じたカリキュラムの点検と改善。	
	年度目標	カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを確認し、必要に応じて修正等を行う。	
	達成指標	学部専任教員（特に通教担当教員）への説明とフィードバックを反映し、必要に応じて改善する。	
	年度末	教授会執行部による点検・評価	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

	報告	自己評価	A	
		理由	カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通教学務委員と教授会執行部が中心となり、作成・点検した。	
		改善策	引き続き、定期的カリキュラムの見直しを行うとともに、カリキュラムツリー&マップの更新が必要である。	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	カリキュラムツリー・カリキュラムマップの作成・点検により、これらに対する知見が深まった。	
		改善のための提言	得られた知見を、今後のカリキュラム改革に活かされたい。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】		
3	中期目標	検証に基づく更なるスクーリングの充実。		
	年度目標	学生アンケート結果に明確に出ているメディア授業のニーズに応えるべく、メディア授業の充実を目指す。メディア授業とスクーリングの開講科目のバランスも検証する。		
	達成指標	メディア授業とスクーリングの開講科目のバランスを検証し、必要に応じて再配置を行う。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	S	
		理由	学生アンケートで要望の多かったメディアスクーリングの充実に向けて、新規開講科目を増やしている。2022年度には「経済学特講」が開講される予定である。	
		改善策	今後も継続して、メディアスクーリング科目を増やすことが学生のニーズを満たすうえで必要と考えられる。	
		質保証委員会による点検・評価		
所見		学生アンケートの要望に基づいて、メディアスクーリング科目の新規開講が、さらに一歩前進した。		
	改善のための提言	メディアスクーリング科目を、一層、充実されたい。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】		
4	中期目標	カリキュラムツリーの活用を通じた学生の履修支援。		
	年度目標	現状認知度が低い場合、ガイダンス等を通じ、カリキュラムマップ・カリキュラムツリーについて案内を行い、学生の目に触れる機会を増やす。		
	達成指標	学習ガイダンスでのマップ、ツリーの案内。コロナの感染拡大で対面での案内が困難なケースが発生しても、一定の対応を行う準備をする。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	新型コロナの感染拡大で対面の学習ガイダンス等ができないケースが発生した場合でも、過去のガイダンス録画等を利用し適切な対応を行った。	
		改善策	コロナ禍の影響もあり容易ではないが、教員講演ガイダンス等での質疑・応答をもとに学生のレスポンスを今後のカリキュラムツリーの活用に生かす。	
		質保証委員会による点検・評価		
所見		不安定な環境下にあつて、過去のガイダンス録画等を利用することで、学生の履修支援を行った。		
	改善のための提言	学生のツリー、マップ活用の促進と、カリキュラムの改善を並行して進められたい。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】		
5	中期目標	継続的な学習推進。		
	年度目標	ステップアップ型学習ガイダンス（事務ガイダンス・卒業生講演及び相談・教員講演）を春と秋の入学後に引き続き実施し、通信教育課程での学びについて理解を深める。		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

	達成指標	ガイダンス実施報告。コロナの感染拡大で対面での案内が困難なケースが発生しても、一定の対応を行う準備をする。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	コロナ禍の影響により、ステップ式学習ガイダンスを春学期・秋学期ともに中止となったが、新型コロナウイルスの感染拡大で対面の学習ガイダンス等ができないケースが発生した場合でも、過去のガイダンス録画等を利用して適切な対応を行った。
	改善策	カリキュラムツリーおよびマップの達成状況を学生自身が把握できるよう学習ガイダンスで指導案内を行う。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	コロナ禍にあつて、実施困難となったステップ式学習ガイダンスに代わって、過去のガイダンス録画等を利用して、継続的な学習推進を実施した。
	改善のための提言	継続的な学習推進のため、臨機応変な支援を期待する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
6	中期目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通じた学修成果の測定への取り組み。
	年度目標	現状認知度が低い場合、ガイダンス等を通じ、カリキュラムマップ・カリキュラムツリーについて案内を行い、学生の目に触れる機会を増やす。
	達成指標	学習ガイダンスでのマップ、ツリーの案内。コロナの感染拡大で対面での案内が困難なケースが発生しても、一定の対応を行う準備をする。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	コロナ禍の影響により、学習ガイダンス等が中止となったが、過去のガイダンス録画等を利用して適切な対応を行った。
	改善策	教員講演ガイダンスでカリキュラムツリー・マップについて言及し、学生が学習の目的や方向性を理解できるように努める。
年度末報告	質保証委員会による点検・評価	
	所見	カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通じて、学修成果の測定に務めた。
	改善のための提言	学生のツリー、マップ活用の促進と、学習成果の測定に取り組まれない。
No	評価基準	学生の受け入れ
7	中期目標	アドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れと検証。
	年度目標	アドミッションポリシーにある「社会に開かれた大学」を実践し、意欲ある様々な学生を受け入れる。
	達成指標	通教主任と学務委員会委員による書類選考の実施と教授会への報告・承認。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	通読判定での書類選考では、課題の書評、学生の経歴、成績を総合的に判断している。身体・精神障がい者も多く入学するため、該当者に対する事前相談・面談の流れも構築している。
	改善策	身体・精神障がい者に対する事前相談・面談制度については具体事例を積み重ねることで改善を図る。
質保証委員会による点検・評価		
所見	障がい者への事前相談を含め、「社会に開かれた大学」を実践し、意欲ある様々な学生を受け入れるべく取り組んだ。	
改善のための提言	多様な学生を広く受け入れるべく、努められたい。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S」：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

No	評価基準	教員・教員組織	
8	中期目標	学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を1名置き、他1名の学務委員とともに通教課程を担当する体制を維持する。	
	年度目標	通信教育課程担当の通教主任1名と学務委員会委員を置き、通教授業編成委員会の設置・開催を含め、教授会執行部との連携をはかる。	
	達成指標	各種委員会体制（委員会名簿）。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	コロナ禍の影響があるにもかかわらず、通教授業編成委員会を活用しながら、通教主任1名と学務委員1名が連携することで通教学務を円滑に回すことができた。
		改善策	通教主任と学務委員の2名の連携を強め、効率的かつきめ細かな対応を図る。
		質保証委員会による点検・評価	
所見		通信教育課程主任を1名、学務委員1名、計2名の体制を維持し、コロナ禍での学務を全うした。	
改善のための提言	通教主任、学務委員を中心に、多くの教員の参加向上に努められたい。		
No	評価基準	教員・教員組織	
9	中期目標	通信教育課程のカリキュラムにふさわしい教員組織の維持。	
	年度目標	通学課程の専任教員を、通信教育課程の教科担当者に必ず配置する形で、教育の質を維持する。	
	達成指標	通信教育課程経済学科科目担当者表。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	通信学習科目については専任教員が教科担当者となり、組織として通信教育課程の質を維持している。
		改善策	通学課程と通信教育課程のカリキュラムを照らし合わせて教員組織の質を担保できるように努める。
		質保証委員会による点検・評価	
所見		専任教員が通信教育課程の教科担当者となる体制を維持し、教育の質を保った。	
改善のための提言	専任教員の参加向上に努められたい。		
No	評価基準	学生支援	
10	中期目標	夏冬期スクーリング時に、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会と連携をはかり、問題・相談に対応する。	
	年度目標	スクーリング時に学生相談支援室・通教主任・通教部長と連携し、問題・相談に対応する。また、入学を希望している障がい等を持つ方に事前相談を実施し、本学通信教育課程のできる支援と配慮を相互確認して、ミスマッチを防ぐ。	
	達成指標	学生相談記録。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	身体・精神障がい者や疾病を持った学生が多く在籍しているため、スクーリング時には学生相談・支援室（カウンセラー・精神科医含む）と通教主任、通教部長、教授会執行部と連携し、問題・相談に対応する体制が整えられている。
		改善策	障がい者に対する事前相談制度を維持し、問題点があれば適宜改善していく。
		質保証委員会による点検・評価	
所見		コロナ禍にあつて、学生相談支援室や通教主任、通教部長と連携し、問題・相談に対応する仕組みを維持した。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

		改善のための提言	多様な学生に対して、臨機応変な支援に努められたい。	
No	評価基準		社会連携・社会貢献	
11	中期目標		「社会人の学び直し」の多様なニーズに応え、社会貢献としての意義を持つ通信教育課程を学部としてサステイナブルに維持して行く。	
	年度目標		通信教育協会加盟大学と合同説明会に参加し、広く高等教育の門戸を開放していることを全国の進学検討者に知らせる。	
	達成指標		広報活動実施報告。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価		S
		理由		コロナ禍にもかかわらず、全国で行われる通信教育協会主催の合同入学説明会に複数回参加した。
		改善策		合同入学説明会でのフィードバックをもとに社会人学生のニーズに対して通信教育課程としてどのようなサービスを提供できるのか検討を進める。
		質保証委員会による点検・評価		
所見			全国で行われる通信教育協会主催の合同入学説明会に、複数回参加した。	
	改善のための提言		社会貢献・社会連携としての通信教育を一層、推進されたい。	
<p>【重点目標】 カリキュラムツリーやマップの認知度向上等、コロナ禍の下でも従来の質を維持する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 カリキュラムツリーやマップに関する学習ガイダンス等での説明</p> <p>【年度目標達成状況総括】 コロナ禍のなか、昨年度と同様、通教学務全体としては従来の業務と変わらない水準を維持するのに多くの労力を必要とした一年であったが、教育内容の改善を図る観点から、メディアスクリーング等が拡充できた点が評価できる。2022年度以降においては、担当教員の定年退職などで課題となる問題（例：社会経済学）の解決に向けて、通教学務委員、授業編成委員および学部執行部が連携し、引き続き、円滑な通教学務の運営を行っていきたい。</p>				

【2021年度目標の達成状況に関する大学評価】

<p>中期目標「カリキュラムツリー・カリキュラムマップの活用を通じたカリキュラムの点検と改善」について、年度目標と達成指標を確認すると、目的がカリキュラムの改善なのか、カリキュラムマップとカリキュラムツリーの修正なのか不明瞭となっている。目標設定の際、中期目標、年度目標、達成指標の間の整合性に留意することが望ましい。</p> <p>経済学部経済学科通信教育課程では、学生からの要望が大きい、メディアスクリーング科目の拡張に取り組んでおり、対象とする科目数が増大していることは高く評価できる。</p> <p>ガイダンスなどで、カリキュラムマップやカリキュラムツリーについて学生に説明し、教育課程の全体像と各授業科目の関連性が理解されるように努力したことも大いに評価できる。身体障がいや精神障がいがある受験生への対応として、個別の事前相談や面談を実施していること、その手順が定まっていることも優れた取り組みとして評価できる。</p>

IV 2022年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実。
	年度目標	過年度の成績分布データや学生アンケートを検討し、学生のニーズの把握に努める。
	達成指標	学務委員会資料の教授会等へのフィードバック（通教主任による報告や教授会での承認等）。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
2	中期目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップの活用を通じたカリキュラムの点検と改善。
	年度目標	カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを確認し、必要に応じて修正等を行う。
	達成指標	学部専任教員（特に通教担当教員）への説明とフィードバックを反映し、必要に応じて改善

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

		する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
3	中期目標	検証に基づく更なるスクーリングの充実。
	年度目標	学生アンケート結果に明確に出ているメディア授業のニーズに応えるべく、メディア授業の充実を目指す。メディア授業とスクーリングの開講科目のバランスも検証する。
	達成指標	メディア授業とスクーリングの開講科目のバランスを検証し、必要に応じて再配置を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
4	中期目標	カリキュラムツリー、カリキュラムマップの活用を通じた学生の履修支援。
	年度目標	学生の間で、カリキュラムツリーの周知が不十分であるため、認知度を上げ、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを学生の履修支援により役立てる。
	達成指標	春・秋の学習ガイダンスにおける教員の講演において、カリキュラムツリーを明示し、カリキュラムツリーを用いた履修計画の例示などを行う。カリキュラムマップの紹介を通じて、大まかな科目の性格付けも学生に認知してもらおう。加えて、教員による指導（スクーリング時のオフイスアワーの指導も含めて）の際にも、カリキュラムツリーを意識した履修計画を学生に促す。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
5	中期目標	継続的な学習推進。
	年度目標	ステップアップ型学習ガイダンス（事務ガイダンス・卒業生講演及び相談・教員講演）を春と秋の入学後に引き続き実施し、通信教育課程での学びについて理解を深める。
	達成指標	ガイダンス実施報告。コロナの感染拡大で対面での案内が困難なケースが発生しても、一定の対応を行う準備をする。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
6	中期目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通じた学修成果の測定への取り組み。
	年度目標	現状認知度が低いため、ガイダンス等を通じ、カリキュラムマップ・カリキュラムツリーについて案内を行い、学生の目に触れる機会を増やす。
	達成指標	学習ガイダンスでのマップ、ツリーの案内。コロナの感染拡大で対面での案内が困難なケースが発生しても、一定の対応を行う準備をする。
No	評価基準	学生の受け入れ
7	中期目標	アドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れと検証。
	年度目標	アドミッションポリシーにある「社会に開かれた大学」を実践し、意欲ある様々な学生を受け入れる。
	達成指標	通教主任と学務委員会委員による通読判定時、アドミッションポリシーを意識した選考を実施及び教授会への報告・承認。
No	評価基準	教員・教員組織
8	中期目標	学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を1名置き、他1名の学務委員とともに通教課程を担当する体制を維持する。
	年度目標	通信教育課程担当の通教主任1名と学務委員会委員を置き、通教授業編成委員会の設置・開催を含め、教授会執行部との連携をはかる。
	達成指標	各種委員会体制（委員会名簿）。
No	評価基準	教員・教員組織
9	中期目標	通信教育課程のカリキュラムにふさわしい教員組織の維持。
	年度目標	通学課程の専任教員を、通信教育課程の教科担当者に必ず配置する形で、教育の質を維持する。ここ数年来、専任教員の教科担当者の定年退職が続いているため、これら教科の専任教員担当者の充足に努め、それら科目の開講を維持する。
	達成指標	通信教育課程経済学科科目担当者表。
No	評価基準	学生支援
10	中期目標	夏冬期スクーリング時に、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

		授会と連携をはかり、問題・相談に対応する。
	年度目標	スクーリング時に学生相談支援室・通教主任・通教部長と連携し、問題・相談に対応する。また、入学を希望している障がい等を持つ方に事前相談を実施し、本学通信教育課程でできる支援と配慮を相互確認して、ミスマッチを防ぐ。
	達成指標	学生相談記録。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
11	中期目標	「社会人の学び直し」の多様なニーズに応え、社会貢献としての意義を持つ通信教育課程を学部としてサステイナブルに維持して行く。
	年度目標	通信教育協会加盟大学と合同説明会に参加し、広く高等教育の門戸を開放していることを全国の進学検討者に知らせる。
	達成指標	広報活動実施報告。
<p>【重点目標】 カリキュラムツリーやマップの学生への認知度の向上を目指す。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 カリキュラムツリーやマップに関する学習ガイダンス等での学生への周知を行い、学生の履修計画作成時の活用を促す。</p>		

【2022 年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

<p>中期目標「生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実」は 2018－2021 年度にも掲げられていた目標であり、通信教育課程に特徴的な「生涯学習」に焦点をあてていることは高く評価できる。一方、2018－2021 年度の成果として、「生涯学習」に焦点をあてた改善の具体例は報告されておらず、次期（2022－2025 年度）の成果に期待したい。</p> <p>中期目標「継続的な学習推進」を達成するための年度目標としてガイダンスを充実させて履修指導の質を高めようとしている点は評価できる。一方、多様な学生が在籍する通信教育課程では、履修指導後の継続した指導にもその特徴を活かせる余地があると思われる。学習成果を把握しながら指導を進める方法の一層の改善努力に期待したい。</p>

【大学評価総評】

<p>経済学部経済学科通信教育課程では、経済学部通学課程のカリキュラムと同等の教育課程を、社会人や障がいをもつ学生など、多様な学習ニーズを持つ在籍者に提供している点が大いに評価できる。</p> <p>こうした教育の実現のために、経済学部の専任教員が授業科目を担当し、学生相談室や学生支援室など関連部署とも蜜に連携をとりながら学修支援に取り組んでいる点も高く評価できる。</p> <p>自己点検やシラバスの第三者確認、授業改善アンケートの実施、GPA や GPCA などのデータの共有も行っており、カリキュラムの評価や改善に向けた議論を進める土台ができていると言えるだろう。</p> <p>今後は、こうした基礎データを活用し、生涯教育に焦点をあてた通学課程とはまた違った教育内容や方法を、必要に応じて開発し導入していくことが期待される。</p> <p>また、学生への個別対応の量や質が、通学課程以上に要求されることが推測され、それを十分に提供していく体制を安定的に維持するためには、通信教育課程に専任教員を置くことを検討すべきだろう。この点については大学全体の課題であると認識する。</p>
--

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。